

聖書 エフェソの信徒への手紙6章10節～20節

06:10 最後に言う。主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。
06:11 悪魔の策略に対抗して立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。06:12 わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。06:13 だから、邪悪な日によく抵抗し、すべてを成し遂げて、しっかりと立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。06:14 立って、真理を帯として腰に締め、正義を胸当てとして着け、06:15 平和の福音を告げる準備を履物としなさい。06:16 なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができます。06:17 また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。06:18 どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい。06:19 また、わたしが適切な言葉を用いて話し、福音の神秘を大胆に示すことができるように、わたしのためにも祈ってください。06:20 わたしはこの福音の使者として鎖につながっていますが、それでも、語るべきことは大胆に話せるように、祈ってください。

説教 『絶えず目を覚まして祈り続けなさい』

◆私たちは、今年の7月2日の主の日から、この「エフェソの信徒への手紙」を始めから順を追って読んでまいりました。そして、使徒パウロの言葉を通して神様の御言葉を聞き、慰めと力を与えられてまいりました。

◆私自身、この手紙に捕えられ、これをもう一度読もうと決めましたのは、本書冒頭の1章3節から7節の言葉に捕えられたからでした。こうあります。

「03 わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、ほめたたえられますように。神は、わたしたちをキリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました。天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選び

になりました。イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになったのです。神がその愛する御子によって与えてくださった輝かしい恵みを、わたしたちがたたえるためです。わたしたちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです。」何という幸いに私達は与かっているのであろうかと改めて思い知らされました。いかに主イエス・キリストの父なる神様をほめたたえても、過ぎることはありませんでした。

◆そして最近、5章21節以下のパウロの勧めの言葉を共に新たな思いで聞きました。そして21節の「キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いなさい」との勧めの言葉を聞きました。そして、全ての間人間関係において、この一事を弁えて、この勧告を実践することが、キリスト者の生活だと思いました。そして「仕える」とは、主イエス様が私たちにそうなさって下さったように、「人の下に身を置く」という意味でした。そのようにして、私たちは今日の聖書の箇所へと読み進んで来ました。

◆パウロの最後の勧告は、「悪との闘い」に関してですが、10節の「主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい」との勧告が総括的な最後の勧告です。人生、本当に、いつ何が起きるか分かりません。しかし、私たちは主イエス・キリストに依り頼み、支えられて、ありとあらゆる試練、行き詰まりにも耐えることができます。

◆この9月25日に主の御許に召された福岡悠紀子姉の変貌・召天の姿は、正に、神様による啓示の出来事でした。痛みと苦しみの極みにあった悠紀子姉の顔は、私たちの眼前で変貌したのです。その痛みと苦しみから解き放たれ、澄み切った、穏やかな顔に変貌を遂げたのです。早やその日からひと月が過ぎましたが、それ以後、この出来事の意味を思い巡らしています。神様は、私たち常に見てくださり、その痛み・苦しみを知り給い、私たちの祈りを聞き届け、御心に適う善き時に、善き事を、私たちに、私たち各自に必ず為さって下さるという事を、肝に銘じて、思い知らされました。

◆ところで、今日の聖書箇所の最後の20節にこうあります。「わたしはこの福音の使者として鎖につながれていますが、それでも、語るべきことは大胆に話せるように、祈ってください」と。私は今更のように、このエフェソ書が「獄中書簡」である事を想起しました。パウロはローマの獄中からエフ

エソの人々にこの手紙を書き送ったのです。そんな基礎的な事実さえ、忘れさせてしまうほどに、この書は、信仰の幸いと勝利に包まれています。

◆今日の聖書箇所での描写は、パウロを監視する看守・ローマ兵の姿をモデルにしています。しかし、いつの時代の、どこの国の、誰であれ、武器と威嚇と攻撃によって、この世に平和をもたらすことはできません。それは、いつの日にか、必ず報復を招くのです。また、武器と威嚇と攻撃によって、人を救いに導くことも滅びに落とす事も絶対にできません。人を裁き得るのはあなただけです。そして、あなただけが人を活かす事がお出来になります。

◆時代的制約の中では、一時、変革できないと思える不正義はあります。しかし、主イエス・キリストに目を向け、主イエス・キリストの真実を知る時、そのような制約のなかでも、その壁を破る道はあります。それは暴力、圧力、威力による道ではありません。キリストは非暴力の道を徹底的に歩み抜かれました。主イエスは、自分を権力的・暴力的「王」にしようとする者を避け、退けられたのです。私たちが目覚めて歩むべき道は、ひたすら祈りの道です。心底からの徹底的な奉仕の道です。十字架を担う道です。

◆主イエス様が私たちに教えて下さった「主の祈り」は、世界を包み、世界を平和に導いてくれます。私たちが、全身全霊で、「御国を来らせた給え。御心の天になる如く、地にも成させ給え」と祈る時、主は必ず聞き届けて下さいます。救いを見させて下さいます。このことを信じてこれからの日々を、共に歩んでまいりましょう。

◆お祈りいたします。

主イエス・キリストの父なる神様。

あなたが私たちを憐れみ、顧みて、私たちのために為さって下さることは、私達の理解をはるかに越えていて、私たちはそれを捕えることはできません。しかしあなたは、あなたの救いの御業を、私たちに見させて下さいました。これからの全ての歩み、全ての事態の中にも、あなたに依り頼み、あなたの偉大な力によって強く支えてください。どうか、御心の天になる如く、地にも成させて下さい。あなたの御心が地になる為に、全身全霊で仕える私たちであらせて下さい。この祈り、イエス様の御名を通し御前にお捧げ致します。アーメン。